

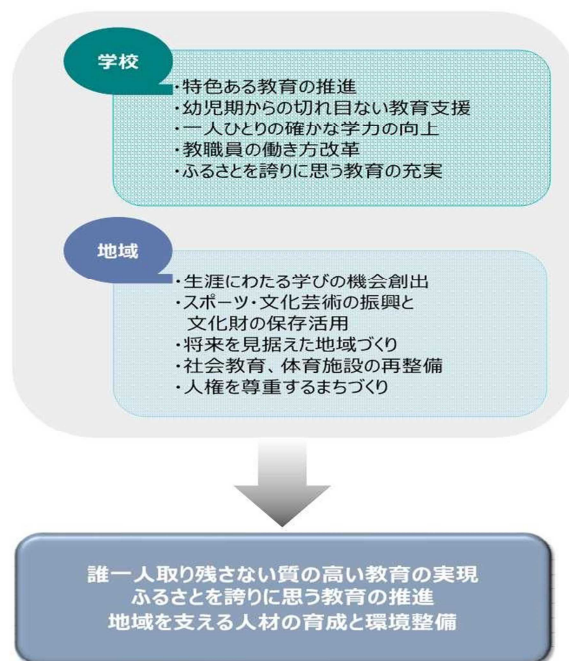
令和 3 年度
教育行政の点検及び評価

令和 4 年 5 月
琴浦町教育委員会

はじめに

琴浦町教育委員会では、「第2期琴浦町まち・ひと・くらし創生戦略」に掲げる持続可能な地域社会の実現に向けて『琴浦町教育大綱』を改訂し、各施策に取り組んでいます。

令和3年度に実施した各施策や事業の実施状況やその成果などについて、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づく点検と評価を行いました。



= 参照 =

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表しなければならない。

令和3年度重点事項

1 学校教育の重点事項

- ①特色ある教育の推進
- ②幼児期からの切れ目ない教育支援
- ③一人ひとりの確かな学力の向上
- ④教職員の働き方改革
- ⑤ふるさとを誇りに思う教育の充実

2 社会教育の重点事項

- ①生涯にわたる学びの機会創出
- ②スポーツ・文化芸術の振興と文化財の保存活用
- ③将来を見据えた地域づくり
- ④社会教育、体育施設の再整備

3 人権・同和教育の重点事項

- ①人権を尊重するまちづくり

1. 教育委員会の活動状況

1. 教育長及び教育委員（令和4年4月1日現在）

氏名	就任年月日	任期	役職
田中 清治	R1.10.27	R4.10.26 1期	教育長
森田 澄恵	H30.10.27	R4.10.26 1期	教育長職務代理
高力 和美	H29.7.1	R5.10.26 2期	教育委員
新田 朗尚	R2.10.27	R6.10.26 1期	教育委員
黒松 悟司	R3.10.27	R7.10.26 1期	教育委員

2. 教育委員会会議の開催状況

(1) 開催回数

定例会議 12回

臨時会議 1回

(2) 付議件数

議案 26件

報告事項 7件

協議事項 6件

5 評価について

(3) 会議の公開状況

傍聴者 : 0人

公開情報：ホームページにて議案等と議事録を公開

3. 総合教育会議

5月17日 今年度ICT活用教育について

12月13日 令和4年度主な教育行政事業計画案について
コミュニティ・スクールについて

4. その他の活動状況

(1) 学校計画訪問

教育現場の実態把握と運営状況等について把握するため、教育委員、事務局職員のほか、県教育委員会職員が学校を訪問。

- ・ 校長、園長からそれぞれの課題や具体的な取組み等について聞き取り
- ・ 授業及び保育参観
- ・ 教職員との意見交換と指導、助言

小中学校 14回

こども園 3回

(2) 町内会議・行事等への参加

琴浦町立小中学校教職員宣誓式

各小中学校入学式

各小中学校卒業式

(3) 研修・視察・調査等

7/1 鳥取県市町村教育委員会研究協議会研究大会（オンライン）

7/15 中国地区市町村教育委員会連合会研修大会

8/19 中国五県町村教育長研究大会（オンライン）

11/4 全国市町村教育委員会委員研修会（オンライン）

11/17 東伯地区教育委員会連絡協議会・倉吉市教育委員会合同研修会

2/10 全国市町村教育委員会オンライン協議会

II. 令和3年度の取組みについての点検及び評価

1. 点検及び評価の方法

琴浦町教育委員会が所管する事務事業のうち、当該年度に重点事項として取り組む事業とその評価項目を年度当初に設定しました。

事務局各課において事業を実施し、年度途中で中間評価を実施。

年度末には事務局による自己評価と、教育委員による評価を行いました。

2. 評価区分について

設定した目標値に対する到達度

◎	順調	設定された目標に到達した
○	概ね順調	設定された目標に到達したが若干の課題がある
△	やや順調でない	設定された目標への到達が順調でなかった
×	順調でない	課題が多く目標に到達できなかった
—	実施できず	やむを得ない理由で実施できなかった

事業目的に対する成果

A	当初の目的・目標を達成した
B	当初の目的・目標に向けて相当の進展があった
C	当初の目的・目標に向けて一部の進展にとどまった
D	当初の目的・目標に向けて進展がなかった
—	やむを得ない理由で実施できなかった

項目	評価		実績と課題	
	事務局	委員会		
1-① 特色ある教育の推進				
デジタル教材、教育用システムの導入 指導者用デジタル教科書などを活用し、情報活用能力の向上	○	B	B	ICT 支援員の活用等により児童生徒の情報活用能力は着実についている。
ALT(外国語指導助手)、英語指導支援員の配置 外国の言葉や文化に触れる機会を増やし興味関心を高める 英語でのやりとりの機会を増やしコミュニケーション力の向上を図る	△	C		英語への関心を高めることができ、英検 IBA で 5 級レベルが 9 割を超えた。コロナの影響により A L T が一部未配置のままとなった。
実用英語技能検定の受検率向上 英語学習に積極的に取組み、英語力の向上	◎	A		中学生の 23% が英語検定を受検した。
1-② 幼児期からの切れ目ない教育支援				
小学校とこども園の連携強化のため支援会議や研修などを実施。	◎	A		特別な配慮を要する園児に関する支援会議や、教職員の子ども園での体験研修など積極的に行った。
中学校教員の小学校における授業実践	—			コロナにより実施できなかった
体験入学や授業体験、相互交流、共同学習の実施	○	C	C	年長児と小学生との交流や授業体験など、コロナにより実施を見送った。 特別支援関係の連携会議などを計画通り実施した。
1-③ 一人ひとりの確かな学力の向上				
特別支援にかかる教職員等の加配	○	B		学習支援員を配置し、支援を要する児童生徒への個別対応を行った。
フリースクール授業料助成	○	B		フリースクール利用世帯に必要な助成を行った。
進学奨励金、通学費助成等による経済負担の軽減	○	B		幅広く周知し、助成を行った。 進学奨励金 89 人 通学費助成 70 人
I C T の活用による新しい学習のあり方を検討	○	B	B	ICT を活用した授業作りに関する教職員研修を行った。 タブレット端末の日常的な持ち帰りにはまだ時間がかかることが見込まれる。
1-④ 教職員の働き方改革				

学校現場における働き方改革の推進	◎	A	A	町内教職員の時間外勤務時間数が削減された。 ▼月平均時間外勤務時間（単位：時間） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 2</th> <th>R 3</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>35.3</td> <td>31.7</td> <td>-3.6</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>38.3</td> <td>36.3</td> <td>-2.0</td> </tr> </tbody> </table>		R 2	R 3	比較	小学校	35.3	31.7	-3.6	中学校	38.3	36.3	-2.0
	R 2	R 3	比較													
小学校	35.3	31.7	-3.6													
中学校	38.3	36.3	-2.0													
I C Tの活用による業務効率化の推進	◎	A		指導者用デジタル教科書の導入により、授業効率があがり、授業準備時間が削減された。												
1-⑤ ふるさとを誇りに思う教育の充実																
コミュニティ・スクールの導入による地域とのつながりを構築	◎	A	A	導入に向けた推進委員会を設置し、2校での導入が実現した。												
地域人材を講師とする学習の実施	◎	A		生活科、社会科、総合的な学習等で地域体験学習を各校で実施した。												
ふるさとを誇りに思う教育の充実	◎	A		梨の栽培体験学習をはじめ地域の教育資源を活用した授業を実施した。												
環境学習の実施	◎	A		海岸清掃やリサイクル活動など、SDGsに関する取組みを実施した。												
2-① 生涯にわたる学びの機会創出																
年代等に応じた学習機会の提供	○	A	A	乳幼児期、少年期、成年期、高齢期と、各世代に応じた学習機会を提供した。												
まちなか図書館等による読書機会の拡充	△	C		まちなか図書館の設置は今年度実施できなかった。												
2-② スポーツ・文化芸術の振興と文化財の保護活用																
健康寿命延伸のためトレーニング教室等の開催	○	B	B	スポーツ教室等の実施回数や参加者は当初の目標を下回ったが、トレーニングルームの利用者は前年度と比べて増加した。												
地域文化芸術団体等の活動支援	○	A		前年度は実施できなかった文化祭、芸能祭を開催し、文化芸術活動団体の発表の場を提供することができた。												
文化財の保存、活用と継承	○	B		国特別史跡「斎尾廃寺跡」指定地の買い上げを行った。												
子どもの運動習慣及び体力向上の活動支援	○	B		外遊びの場としてプレーパークどんぐり、子ども運動教室を開催した。												
2-③ 将来を見据えた地域づくり																
各地区での人口ビジョンワークショップ	○	A	A	各地区でワークショップを開催し、地												

プの実施				域課題についての意識共有を図った。
各地区における地域課題解決のための取組み	○	A		全地区でヒアリングを実施し、今後の取組みについて協議を行っている。
2-④ 社会教育、体育施設の再整備				
町民意見をリニューアルへ反映させるためのワークショップの開催	△	D	D	まなびタウンとうはくのリニューアルに向けた取組みは予算が成立せず進展なし。基本設計に関する住民説明会を実施し、周知を行った。
民間資金を活用した東伯総合公園の再整備	○	C		P F I 導入に向けて2回の勉強会を開催した。
トレーニングルームの料金改定	△	C		当初予定していた料金改定に向けたアンケート調査が実施できなかった。
3-① 人権を尊重するまちづくり				
人権教育・啓発活動の推進	○	B		参加者アンケート回収率は約20%と目標を若干下回った。
人権施策基本方針の策定	◎	A	A	策定委員会や関係団体の意見交換会、パブリックコメント、審議会等を経て、3月末に策定。
より効果的な学習方法や学習機会の提供	◎	A		人権フェスティバル参加者アンケートによる満足度は100%となった。
部落問題の解決・福祉の向上・児童の健全育成・人権啓発のための住民交流の拠点としての文化センター事業の充実	◎	A		文化センター実施事業の参加者アンケートによる満足度は80%を超えた。